

教生先生が やっている



附属小学校 教諭
大 谷 陽 子

今年も教育実習の本実習が終わった。「附小の子は毎年のことだから、教育実習生がくることを何とも思っていないらしい」と学生さんたちには思われているようだが、そんなことはない。たしかに毎年のことではあるが、一学期の観察

参加で教生先生に初めて出会ったときから、九月の本実習を楽しみにしている。担任とは違つて若さあふれる教生先生に、授業や遊びで興味を抱いているようだ。

力いっぱい遊ぼう！

私の担任する四年一组にも四人の教生先生



教生先生の授業では、いつも手を挙げたりしない子が手を挙げて、発表までしていた。その子の意外な一面に驚きつつ、私はひそかに悔しがつているのだが、これも教生先生への子どもたちなりの応援なのだろう。

がんばって、教生先生！

今年も教育実習の本実習が終わった。すると怒り、本気で投げると羨望のまなざしを向ける。遊びであつても、全力投球を要求している子どもたちである。

実習も終わりの日が近づくと、子どもたちから「お別れ会をしよう」と声があがつた。『三五人みんなでつくる教生先生お別れ会』

四週間楽しかったよ

一生懸命に教生先生の言葉に耳を傾け、そして応えようという気持ちが、近くで見てる私にもヒシヒシと伝わってくる。でも、なかなかうまくいかない授業に、教生先生自身が落ち込んでいくのも伝わってくるのだ。算数の時間。「なんでそれが垂直なん?」「そんなん、おかしいわ！」と納得いかない子どもたち。行き詰まってしまった教生先生の「…うーん…でもな、垂直やねん！」と一言に、「えーーーっ！」とますます不満の声を上げる子どもたち。国語の時間。教生先生の問いかけに対しても「?」という表情の子どもたちを見て、思わず「どうしよう…。」と言つて止まってしまった。そんな授業の終わりのチャイムが鳴ると、必ず何かの子どもたちが教生先生の周りを囲んで、遊びに誘つたり笑わせようとして、言葉には出さないが励ましのエールを送っている。私から見ると、本当に羨ましい。



体育大会、応援してね

と題した会は、まさにクラスのみんなで力を合わせて作り上げたお別れ会になつた。六つに分かれた班が、それぞれ十分間の持ち時間にゲームなどを計画した。かくれんぼ、サッカー、けいドロなど六つの遊びがそろい、教生先生と走りまわつた。最後に教生先生に音楽の授業で教えてもらった『いつも何度でも』を全員で合唱した。こうして子どもたちと教生先生にとつての四週間があつたという間に終わつた。

「五組キャンプ」の とづくみ



でしつかりとできるよう準備し五組キャンプを迎える。

一日目の午前中は「開村式」

「キャンプ村づくり」・「買物」

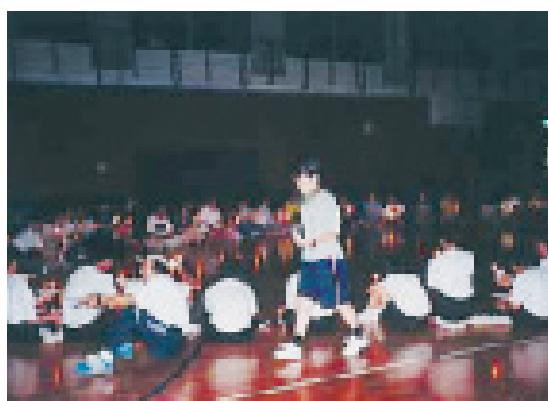
テントを張った中庭で「開村式」、キャンプ実行委員長のあいさつの後、「五組キャンプの歌」を大合唱、班長会議や各担当の班長から日程説明やテントの説明、三日間の献

から始まる第一学年各クラスとの交流会に向け、クラス代表との交流を深めることを目的にしている。プールでの水遊び、ゲームなどを楽しんだあと、みんなでつくったカレーを食べながら交流の輪を広げる。

加者全員楽しいひとときを過ごす。全員が一つの大きな輪になり口一ソクのほのかな明かりの中でくりひろげられるキャンプルサーサービスでは、キャンプ村づくりや買物でがんばったこと、プールでの交流会や怖かったきもだめし、テントで寝たことやカレー、おでんづくりなど、生徒一人ひとりがキャンプへの取組みを報告し合う。校長先生や保護者からの感想もあり、みんなで「遠き山に日は落ちて」を歌い、楽しい打ち上げ花火で二日目の夜は終わる。

附属中学校の障害児学級（以下五組）では、夏休みを控えた七月上旬に学級敷地内で二泊三日のキャンプを実施している。この取り組みは、障害児学級が設置された翌年（一九六七年）から毎年夏休み前に実施しており、子どもたちがとても楽しみにしている行事のひとつである。

六月の中頃になると、二・三年生から「もうすぐ五組キャンプだね。きもだめしが怖いなあ」「わたしテントで寝るの楽しみ」「今年はキャンプ係でがんばるぞ」等々、キャンプに向けての話題でもちきりになる。この時期、私たち教師も、楽しいキャンプにするために、みんなで力を合わせることの大しさや、一人ひとりが自分の仕事を最後ま



三日目は、キャンプ村かたづけ と「閉村式」

立の説明。それが終われば男子は「キャンプ村づくり」、女子は近くのスーパーへ「買出し」に行き、三日間のキャンプがスタートする。

二日目の夜は 「親と子のつどい」

三日目は、朝からかたづけが始まる。男子はキャンプ村のテントをたたんだり、ブロックを運んだりと、暑い中汗だくの作業。女子は調理で使ったたくさんの中食器や用具のかたづけと教室掃除に全力を出して取り組む。

昼食を終えていよいよ「閉村式」、キャンプ係と炊事係の各係長から

一日目の午後は、第一学年 クラス代表との交流会

キャンプ初日は一年生普通クラス代表と五組との交流会。二学期

のスープーへ「買出し」に行き、「親と子のつどい」である。お父さんお母さんは言うに及ばず、ご家族総出の参加があり、卒業生や教育実習生も加わり、例年百名近い参加になる。子どもたちやご家族からよせられた七夕へのお願い紹介、ゲームや歌、踊りと、参

加者全員楽しいひとときを過ごす。全員が一つの大きな輪になり口一ソクのほのかな明かりの中でくりひろげられるキャンプルサーサービスでは、キャンプ村づくりや買物でがんばったこと、プールでの交流会や怖かったきもだめし、テントで寝たことやカレー、おでんづくりなど、生徒一人ひとりがキャンプへの取組みを報告し合う。校長先生や保護者からの感想もあり、みんなで「遠き山に日は落ちて」を歌い、楽しい打ち上げ花火で二日目の夜は終わる。

◆◆◆附属校園では◆◆◆

(各附属学校園の教育実践や行事などを紹介するページです)

幼稚園と私

附属幼稚園 园長
石崎一夫



幼稚園長を併任して四年が過ぎた。大学の授業との関係で、園の行事への参加が難しい場合などもあるが、いくつかの行事について振り返ってみたい。

サンタクロース

どうしても抜けられない行事は、「入園式」「卒園式」そして「運動会」や「クリスマス会」。

クリスマス会ではサンタクロースに扮する。ほとんどの子どもたちが本物と思っている様子がたまらなく可愛い。白い髪をつけたおじいさんが何者かを確かめようとすると、子は一人か二人である。

日本の行事

幼稚園の保育行事には、日本の



伝統行事も多く組み込まれている。「こどもの日」五月の節句の大好きな武者人形と空に舞う鶴のぼり、みんなの願いをクラスごとの紙に吊るす「七夕」、それから「ひなまつり」。秋に収穫したサツマイモを焚き火で焼く「やきいも」や「お餅つき」もある。落ち葉で美味しく焼き芋を焼く方法や、石臼を洗ったりもち米を蒸してヨモギもちに仕上げるまでなど、日本古来の豊かな経験が必要な行事は、

命頑張って大きくなろうとしている子ども一人一人に（子どもは少しだけ先を見ながらその時その時を生きているのだが）、大人がどのように関わればよいのか、どのような援助が最良なのか、毎日の

教育課程

様々な年中行事の中で日本人としての心を育めるように幼稚園の教育課程は作られている。

改訂された幼稚園教育要領と独自の研究課題によって継続されている実践結果をまとめながら今年も新しい本園の教育課程の改訂が進められている。

ゆとりのある生活はどこから生まれるのか、生きる力を培う基礎的な教育は何か、そんな願いを込めながら教育課程は作られていく。

している大切な保育行事には欠かせない人材である。その資格さんも、この春定年。幼稚園の伝統行事を

実践調査

附幼では平成九年度から「児童の生活を見つめる」をテーマで、「親子で育つ幼稚園を目指して」の実践研究の継続を通して、先生方も一緒に育とうとしている。

将来の日本を支えてくれる子どもたちに、ゆとりのある豊かでやさしい心と歴史を踏まえた国際的な日本人の心、そして生きる力の基礎を、保護者と力を合わせて育むことができるよう毎日の保育が行われている。

にくる二・四歳までには、それぞれの個性や生活習慣が育っている。「三つ子（三歳児）の魂百まで」と言われるよう、そのときの個性や習慣など歳をとっても忘れない人もいる。残念ながら私の場合はほとんど覚えていない。しかし覚えてはいないがその三歳の子どもたちとも会話を成り立つ。一生懸命頑張って大きくなろうとしている子ども一人一人に（子どもは少しだけ先を見ながらその時その時を生きているのだが）、大人がどのように関わればよいのか、どのような援助が最良なのか、毎日の実践の中で、一番難しい課題である。

保護者との連携

「タベの手際よく準備から後始末まで手伝ってくれる。夏休み前の「タベの集い」のキャンプファイヤーの仕込みや「運動会」のときの高いボールからの万国旗など、長年懇親

にくる二・四歳までには、それぞれの個性や生活習慣が育っている。「三つ子（三歳児）の魂百まで」と言われるよう、そのときの個性や習慣など歳をとっても忘れない人もいる。残念ながら私の場合はほとんど覚えていない。しかし覚えてはいないがその三歳の子どもたちとも会話を成り立つ。一生懸命頑張って大きくなろうとしている子ども一人一人に（子どもは少しだけ先を見ながらその時その時を生きているのだが）、大人がどのように関わればよいのか、どのような援助が最良なのか、毎日の実践の中で、一番難しい課題である。